

ティーチング・ポートフォリオ

大学名： 湘南医療大学保健医療学部

所 属： 保健医療学部

名 前： 内藤 亜由美

作成日： 2026 年 4 月 21 日

1. 教育の責任

私は、2024 年 4 月に湘南医療大学保健医療学部臨床看護学領域に着任した内藤 亜由美（教授）である。大学における教員経験は 6 年目である。前職では、成人・老年看護学領域に所属し、老年看護学を担当し、老年看護学概論、老年期看護論、老年看護実践論、成人・老年看護実践論、在宅看護論の講義演習を担当していた。**実習**では、看護過程の展開実習、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱ、成人看護学実習（終末期）、看護学統合実習を担当した。また、老年看護学ゼミで卒業研究指導、就職支援、国家試験対策を担当した。大学院においては、高度実践看護コースで治療のための NP 実践演習を担当した。

本学では、30 年以上の臨床経験（超急性期、慢性期、在宅など）、特定認定看護師としてのチーム医療の経験を活かし、臨床看護学領域で表 Ⅰ に示す科目を担当し、科学的根拠に基づいた看護を実践し、地域・社会に貢献できる人材養成を行っている。

表Ⅰ 2026 年度担当科目

保健医療学部看護学科	成人看護学
	成人看護方法論Ⅰ
	成人看護方法論Ⅱ
	ナーシングプロセスⅡ
	ナーシングスキル学Ⅱ
	プロフェッショナル論Ⅰ
	リハビリテーション看護論
	病理学
	病態学Ⅰ
	病態学Ⅲ
	薬と毒性学入門
	薬と毒性学入門
	慢性期看護学実習
	看護学統合実習
保健医療学専攻修士課程	感染看護学特論Ⅴ
その他	看護キャリア開発コアセンター看護師実習指導者養成課程
	下田看護専門学校 成人看護方法論Ⅲ

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私の看護の理念は、2つある。一つは「生きた看護」を実践することである。生きた看護とは、提供する看護により、たとえ病や障害をもっていようとクライアントやクライアントを取り巻く人々が、その人らしく生き生きと生活できるように Well-being を支えることを目的とする看護であり、そのプロセスの中で看護を提供する側も生きがいを感じることができるとする看護である。二つ目は、臨床のニーズや疑問（クリニカルクエスチョン）を研究課題（リサーチクエスチョン）に吟味し、臨床研究活動を継続することである。大学教員の役割には、①専門分野の研究、②学生への教育、③大学の管理・運営がある。この3つの中で、専門分野の研究は意識的に取り組まなければ日々の教育活動や大学運営の業務に流されてしまう恐れがある。常に疑問をもち、「こうなったらもっとケアよくなる」という探求心を持ち続けていくこと、研究を通して地域医療とのつながりを持ち続けることを大切にしていきたい。

2) 理念をもつに至った背景

「生きた看護の実践」、「臨床研究の継続」という私の理念をもつに至った背景は、私のこれまでの皮膚排泄ケア特定認定看護師としての経験と、大学院での学びとこれまでの研究活動がある。

私は、1990年に看護師免許を取得し29年間を超急性期病院、2年間を地域医療、その後3年間は大学教員をしながら看護外来で勤務してきた。その中で、看護師11年目に皮膚排泄ケア認定看護師の資格を取得した。病院内の組織を横断的に活動し、ストーマケア、創傷ケア、フットケアを提供する看護外来を開設し、小児から高齢者と年齢を問わず、外来-病棟-退院調整-在宅と時期を問わず、救命救急センター、一般病棟、外来と場所を問わず、あらゆる急性創傷・慢性創傷や排泄に問題のあるクライアントの実践、相談、教育活動を行ってきた。その間、わが国は超高齢社会を迎え、医療政策にも変化を余儀なくされ、在院日数の短縮化、医師の診療科や都市部への偏在化、医療安全の課題などから医療崩壊の危機が提唱される時期を経験した。地域医療構想では、在院日数の短縮化と医療機関の役割分担の明確化が進み、医療依存度の高い患者であっても、急性期病院から回復期病院、療養型病院、在宅医療へ移行しなければならなくなった。そこで、わが国では2016年度から看護師特定行為研修制度を制定し、医師の業務のタスクシフトが行われるようになった。私は、看護師特定行為研修の先駆けとなった厚生労働省の試行事業から参画してきた。そして、制度化初年度に研修を修了し、試行事業から数えると約15年間看護師特定行為研修に関わってきた。認定看護師として特定行為の実践を行うことは、

まさにインターディシプリナリーアプローチによるチーム医療であり、以前よりも患者や周囲の医療者とのきずなが深まった。これらの経験が「生きた看護の実践」に至った背景である。

次に、「臨床研究の継続」は、私の看護師人生に大きな影響を与えた恩師や大学院の仲間による影響が大きい。私は、老年看護学／創傷看護学分野における臨床・研究活動を世界に発信し高い評価を得てきた研究室で大学院生活を送る機会に恵まれた。ひとつの研究成果が、一日に数えきれないほど多くの療養者、医療者によい結果をもたらすことを目の前で経験することができた。よりよい看護を提供するための臨床に根差した研究に取り組み続け、研究活動のプロセスの中で臨床とのつながりを構築していきたいと考える。

3. 教育の方法・戦略

教育の方法として、①解剖・生理に基づいたメカニズムを理解する、②ケアの根拠を理解する、③体験学習を取り入れる、④医療現場での応用、実際の医療現場では何がおこっているのかを理解することを目指し、テキストに書かれていることを基本としつつ、学生が将来実習や臨床現場で考える基礎づくりを行っている。

① 解剖・生理に基づいたメカニズムの理解

表面から見えない体内のメカニズムを、わかりやすいシェーマ、動画などを用いて解説する。インターネットやスマートフォンの普及とともに育ち、デジタルネイティブ世代の学生には、文字だけでは要点が伝わりにくいため文字を読むことが苦手な学生にも理解ができるように資料作成に工夫をする。
(成人看護学、リハビリテーション看護論)

② ケアの根拠を理解する

ケアの手順や方法だけではなく、なぜそのように行うのか、関連する研究結果を提示しながら科学的根拠を教授する。
(リハビリテーション看護論、看護研究Ⅱ)

③ 体験学習を取り入れる

グループ学習、体験学習（ストーマ装具の貼付経験、体圧分散寝具の体験、体圧測定）などを取り入れ、知識だけでなく実際に体験や計測を行うことで、知識の定着・確認・創造をめざす。
(リハビリテーション看護論、ナースングスキルⅡ)

④ 医療現場での応用、実際の医療現場で何が起こっているのかを理解する

知識の定着、応用につながる事例を提示し、暗記ではなく「自分自身ならばどのように実践するか」を統合して考えられるように促す。
(成人看護学、リハビリテーション看護論)

上記を展開するために、教育の戦略として、最新の機器などを用いたアセスメン

ト技術の習得する、最新の医療・看護の知見を国外・国外の文献から情報を得る、臨床とのつながりをもつ、の3点を行なう。

4. 学習成果

- ・ 成人看護学では、学生より配布資料が非常にわかりやすいという評価を得た。
- ・ リハビリテーション看護論では事例を用いたグループワークを行った結果、ストーマとともに生きる患者の理解や患者指導に必要なこと、継続看護の必要性について学生の気づきや理解が得られた。
- ・ 病態学Ⅰ、病態学Ⅲでは、各回満点を取れるまで繰り返し取り組む全10回の学修ドリルを作成し実施した結果、再試験対象者の減少につなげることができた。

5. 改善のための努力

成績低迷者への支援が喫緊の課題である。3年生チューター長、FD委員会委員長、教務委員会副委員長として、以下の項目に取り組む。

- 1) 看護学科FD研修の企画・運営
 - ① 精神障害がある学生の理解と合理的配慮に関するFD研修の企画・運営
 - ② 教務関連の約束事項の共通理解に関するFD研修の企画・運営
 - ③ 段階的な学修を目指すための科目間の連携に関するFD研修の企画、運営
 - ④ 効果的な実習を行うためのグループ病院との連携強化に関する研修の企画・運営
 - ⑤ アセスメントポリシーに関する研修の企画・運営
- 2) 3年生チューター活動
 - ① 学生のコンピテンシーを伸ばす個別学修支援
 - ② 国家試験対策支援のドリルの作成と実施
 - ③ 就職活動支援
 - ④ 生活支援
- 3) 教務委員会活動
 - ① 学修進度に合わせて、授業形態、試験などについて科目責任者、教務事務と検討し、必要な連絡・調整を行う
 - ② 科目未修得者について各チューターと協力して支援する
 - ③ 学生の科目履修が順調に進められるよう科目責任者・チューター・教務事務・学科教務委員と必要な連絡・調整を行う
 - ④ 時間割・ガイダンス・定期試験等学生の学修が滞りなく進められるように支援する
- 4) 科目運営

- ・ 成人看護方法論Ⅱ、ナーシングプロセスⅡの科目責任者として、学生が内容を理解し、単位を取得できるよう科目運営を行なう
- ・ アクティブラーニングをとりいれ、学生の経験を大切にする授業を展開する。

6. 今後の目標

【長期目標】

- 1) 現3年生が残す2年間で卒業できる
- 2) 現3年生の進路が決まる
- 3) 教育と研究の両立
- 4) 専門分野における社会貢献を行なう

【短期目標】

- ① 担当するチューターグループ学生の特徴を理解し、個別的な指導ができる（2027年3月まで）
- ② 査読付き論文を2編執筆する（2027年3月まで）
- ③ 新たな臨床研究の倫理審査を完了する（2027年3月まで）
- ④ 所属学会から拝命している委員会の活動を推進する（2027年3月まで）

【添付資料】

成人看護方法論Ⅱ シラバス

ナーシングプロセスⅡ シラバス

3年生チューター活動年間計画

看護学科FD委員会年間活動計画

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験 のある教員 による科目
成人看護方法論Ⅱ		必修	講義・演 習	1単位 (30時間)	3年前期	内藤亜由美・伊藤ふみ子・渡部節子・清水奈緒美・ 岡多恵・野口京子・石橋史子・倉橋悠子・三堀いずみ	○
Adult Nursing Methodology Ⅱ							
ナンバリングコード	HNSD2	オフィスアワー		授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP2)エビデンスに基づく実践力 DP3)援助的コミュニケーション力 DP4)チームで連携し協働する力					
応用科目							
授業概要	慢性的・長期的に経過する健康障害を持つ人のセルフケアを促進し、その人らしい生活を維持するための支援の方法について学修する。さらに、人生の最期のときにある人とその家族に対するケア、遺族へのグリーフケアについて学修する。						
到達目標	1)慢性的な経過をたどる健康障害を有する対象者の特徴、及び慢性期における看護の特徴について説明できる。 2)慢性的な経過をたどる健康障害の病態、治療過程を理解し、アセスメントの視点について説明できる。 3)慢性的な経過をたどる健康障害の病態や治療が、対象者の生活に与える影響について説明できる。 4)慢性的な経過をたどる健康障害を有する対象者への看護援助について説明できる。 5)慢性的な経過をたどる健康障害を有する対象者のセルフケア能力を高めえる支援方法が説明できる。 6)エンドオブライフケアおよび緩和ケアの概念について説明できる。 7)人生の最期のときにある人及び家族の特徴を全人的に理解し、QOLの維持・向上を目指す支援について説明できる。						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）					担当教員
1回目 4/8(火) 4限	慢性期看護の概要	科目ガイダンス後に慢性期疾患および慢性期にある成人とその家族の看護について、ピア・インストラクションなどに取り組みながら学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。					内藤 亜由美
2回目 4/15(火) 4限	呼吸器機能障害のある人の看護	慢性期閉塞性肺疾患(COPD)の病態・症状・治療、それらが対象者の生活に与える影響、生活調整・生活の再構築へ向けたアセスメントの視点、看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。					石橋 史子
3回目 4/22(火) 4限	循環機能障害のある人の看護	心不全患者の病態・治療、それらが生活に与える影響とセルフ・マネージメントに向けたアセスメントの視点と看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。					伊藤 ふみ子
4回目 5/13(火) 4限	内分泌機能障害のある人の看護 ① 主な内分泌疾患の理解、糖尿病の病態、治療、セルフマネジメント	主な内分泌疾患・糖尿病(1型糖尿病・2型糖尿病)の病態・治療の理解、糖尿病が生活に与える影響とセルフ・マネージメントに向けたアセスメントの視点と看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。					伊藤 ふみ子
5回目 5/20(火) 4限	内分泌機能障害のある人の看護 ② 生活調整と生活の再構築	糖尿病の病態、治療が生活に与える影響と生活調整・生活の再構築に向けた支援について、ピア・インストラクションを行いながら学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。					伊藤 ふみ子
6回目 5/27(火) 4限	栄養代謝機能障害のある人の看護	肝炎および肝硬変の病態・治療・患者の看護について、ピア・インストラクションなどに取り組みながら学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。					内藤 亜由美
7回目 6/3(火) 4限目	身体防御機能障害のある人の看護	感染症に罹患している患者の特徴と看護一結核・HIV/AIDSを中心に学修する。 事前学習(30分)教科書9の該当箇所を読む 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。					渡部 節子
8回目 6/10(火) 4限	内部環境調節機能障害のある人の看護① 腎炎・慢性腎不全・慢性腎臓病	腎炎・慢性腎不全・慢性腎臓病の病態・治療、それらが生活に与える影響、生活調整、生活の再構築のアセスメントの視点、看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。					倉橋 悠子
9回目 6/17(火) 4限	内部環境調節機能障害のある人の看護② 透析療法	透析療法を受ける患者のセルフケアに向けた看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。					倉橋 悠子
10回目 6/24(火) 4限	脳・神経機能障害のある人の看護	脳卒中の病態・症状、それらが生活に与える影響と生活の再調整のためのアセスメントの視点と看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書8の該当箇所を読む 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。					野口 京子
11回目 7/1(火) 4限	身体防御機能・運動障害のある人の看護	全身性エリテマトーデス(SLE)や関節リウマチの病態・治療、それらが生活に与える影響、生活調整、生活の再構築のアセスメントの視点、セルフケアに向けた看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。					石橋 史子
12回目 7/8(火) 4限	消化器系機能障害のある人の看護	慢性便秘症、炎症性腸疾患(クローン病、潰瘍性大腸炎)の病態、治療、看護について、ピア・インストラクションなどに取り組みながら学修する。 事前学習(30分)教科書5の該当箇所を読む 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。					内藤 亜由美

評価	各講義での小テスト45%、定期試験55%。
課題に対する フィードバックの方法	復習テストの回答は、次回講義時に正解を配布する。
教科書	【第1回】系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[1]成人看護学総論/ 小松浩子他/ 医学書院/ 第16版/ ISBN9784260047012 【第2回】系統看護学講座専門分野成人看護学[2]呼吸器/ 川村雅文他/ 医学書院/ 第16版/ ISBN9784260053099 【第3回】系統看護学講座専門分野成人看護学[3]循環器/ 吉田俊子他/ 医学書院/ 第16版/ ISBN9784260053112 【第4回】系統看護学講座専門分野成人看護学[6]内分泌・代謝/ 吉岡成人/ 医学書院/ 第16版/ ISBN9784260053105 【第5回】系統看護学講座専門分野成人看護学[6]内分泌・代謝/ 吉岡成人/ 医学書院/ 第16版/ ISBN9784260053105 【第6回】系統看護学講座専門分野成人看護学[5]消化器/ 南川雅子/ 医学書院/ 第16版/ ISBN9784260053006 【第7回】系統看護学講座専門分野成人看護学[5]消化器/ 南川雅子/ 医学書院/ 第16版/ ISBN9784260053006 【第8回】系統看護学講座専門分野成人看護学[8]腎・泌尿器/ 大東貴志/ 医学書院/ 第16版/ ISBN9784260053143 【第9回】系統看護学講座専門分野成人看護学[8]腎・泌尿器/ 大東貴志/ 医学書院/ 第16版/ ISBN9784260053143 【第10回】系統看護学講座専門分野成人看護学[7]脳・神経/ 井出隆文 / 医学書院/ 第15版/ ISBN9784260035613 【第11回】系統看護学講座専門分野成人看護学[10]運動器/ 田中栄/ 医学書院/ 第15版/ ISBN9784260035651 系統看護学講座専門分野成人看護学[11]アレルギー膠原病感染症/ 岩田健太郎/ 医学書院/ 第15版/ ISBN9784260038584 【第12回】系統看護学講座専門分野成人看護学[11]アレルギー膠原病感染症/ 岩田健太郎/ 医学書院/ 第15版/ ISBN9784260038584 【第13回】系統看護学講座専門分野成人看護学[4]血液・造血器/ 飯野京子/ 医学書院/ 第16版/ ISBN9784260053068 【第14回】系統看護学講座別巻がん看護学/ 小松浩子/ 医学書院/ 第3版/ ISBN9784260042161 【第15回】系統看護学講座別巻がん看護学/ 小松浩子/ 医学書院/ 第3版/ ISBN9784260042161
参考図書など	適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	・'全回を通して、manabaでのリフレクションペーパーの作成と復習テストを実施することにより、学修内容の理解を深めるように構成されている。 ・適宜、ピア・インストラクションによる学生相互の学修を図り、空欄を作った資料配布し解答を考える虫食い問題に取り組むことで学修の動機付けと学生自身の理解度の確認ができるように構成されている。
実務経験のある 教員による授業	成人を対象とする慢性期看護の経験を持つ教員が授業を担当する。
留意事項	・講義には各回が指定する教科書を持参すること。 ・各回で学修予定の疾患について、既習科目(特に病態学Ⅰ～Ⅲ)の教科書・講義資料を必ず復習して講義に臨むこと。 ・本科目は、慢性期看護実習の学修の基盤となるものである。学修を積み重ねられるよう、ノートの作成を推奨する。 ・講義後のmanabaへのリフレクションペーパーの提出がない場合、出席扱いにはしない。 ・授業中の私語を慎むこと。

2026 年度 FD 委員会活動計画

メンバー	委員長：内藤教授、他 10 名	
2026 年度 FD 重点項目	本学理念及び今年度重点項目を実現するために保健医療学部以下の重点項目を FD 委員会活動の焦点とする。 ③ 授業評価等の結果を生かした授業改善、教育活動改善への活用 ⑥ 休退学者減少への取り組み ⑦ FD/SD 研修の充実 ⑩ キャリア支援と地域社会への貢献	
活動目標	1. 休退学者減少のための教育の質の向上	重点項目⑥
	2. 湘南医療大学看護学科のカリキュラムの特徴を活かした教育の質の向上と看護学科教員としての基礎能力の育成支援	重点項目③⑥⑦
	3. グループ病院施設理解の促進	重点項目⑩

活動計画		
目標	活動	予定月
1	1. 対象の理解のための研修 精神障害がある学生への理解と配慮に関する FD 研修の開催	7 月
2	1. 当学、学科の特徴の理解と効果的な授業設計と運営 1) 教務関連の約束事項の共通理解に関する FD 研修の開催 2) 本学のカリキュラムのアセスメントプランとその実行に関する FD 研修の開催 3) 段階的な学修を目指すための科目間の連携に関する FD 研修の開催 2. 看護学科教員としての基礎能力の育成 1) 学科長講演会の開催 2) 外部セミナーの案内と参加の促進 3) 教員間の授業参観とフィードバック 2. 実習評価アンケートの実施とフィードバック	5-6 月 5 月 8-12 月 4/30 年間 年間
4	1. グループ病院との連携強化に関する研修 新任教員・希望者を対象とするグループ病院研修の実施	8 月

2026 年度 3 年次生チューター活動計画

1. チューターメンバー：10 名

内藤（チューター長）、他 9 名

2. 活動方針

修学、学生生活の支援に関する履修上の様々な課題を抱える学生が多い中、休退学者低減と安全な臨地実習に向けた学修支援、生活支援、キャリア支援活動を行う。

3. 活動目標

- 1) 専門職を目指す大学生として、また、成人を迎えた者として、ルールやマナーを守り、高い倫理観をもって大学生活を送ることができるよう支援する。
- 2) 多様な専門性への理解を深め、自分の能力や適性を客観的につかむことを通じ、自己が目指す将来像に向けて研鑽できるように学生のキャリア開発を支援する。
- 3) 実習に向けた準備と精神的サポートを行い、学生が実習目標を達成し、安全かつ主体的に学修できるよう支援する。
- 4) 学生が互いを尊重し、コミュニケーションを通じて理解を深めながら関係を築き、将来的にチーム医療を推進しながら地域社会へ貢献できる人材となれるよう支援する。

4. 活動計画：

時 期	内 容
4 月	1) ガイダンス（2026/4/6） 2) 学生より各担当者の選出 ・ クラスリーダー、サブリーダー ・ チューターグループリーダー、サブリーダー ・ 国家試験対策 ・ オープンキャンパス ・ 国家試験壮行会担当 3) 第 1 回個別面談・学修計画立案支援 4) 前期休学学生への学修支援 5) 第 1 回就職希望アンケート
5 月	1) 授業出席状況の確認と支援 科目責任者との連携 2) 看護の日学生ボランティア（湘南東部総合病院）
6 月	1) 授業出席状況の確認と支援 科目責任者との連携
7 月	1) 就職説明会（2026/7/11） 2) 定期試験に向けた学修支援 3) 授業出席状況確認と支援 4) 夏休み前ガイダンス 5) 定期個別面談 6) 第 2 回就職希望アンケート
8 月	1) 前期追・再試対象者の把握 2) 夏休み前個別面談（該当者） 3) CBT への協力

	4) 後期履修登録指導
9 月	1) 実習出席状況の確認と支援 2) 2026/9/5 保護者会
10 月	1) 実習出席状況の確認と支援
11 月	1) 実習出席状況の確認と支援
12 月	1) 実習出席状況の確認と支援
1 月	1) 追実習・再実習状況の確認 2) 就職希望アンケート③ 3) 就職エントリーシート作成指導 4) 模擬面接 5) 国家試験模試 6) 国家試験壮行会
2 月	1) 単位取得状況の確認 2) 第 3 回個別面談・学修計画の評価
3 月	1) 支援が必要な学生の対応に関する検討 2) ふれあいグループ就職試験（1 週目予定）学生サポート 3) 4 月新 4 年生ガイダンス準備 4) 活動評価 5) 卒業パーティー
4 月	1) ガイダンス

※上記担当はあくまでも委員会毎の代表であり、各イベント毎にチューター全員が協力して業務を実施する。

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
ナーシングプロセスⅡ Nursing Process Ⅱ		必修	演習	2単位 (60時間)	3年前期	内藤亜由美・伊藤ふみ子・望月千夏子・岡多恵・ 陶山克洋・塚原ゆかり・野口京子・松永雄至・ 石橋史子・倉橋悠子・三堀いずみ・高橋美保・ 本間誠淳	○
ナンバリングコード		HNSC2		オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後及びメールで受け付ける	
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP2)エビデンスに基づく実践力 DP3)援助的コミュニケーション力 DP5)安全を保障する力					
基盤科目							
授業概要		ナーシングプロセスⅠで習得した思考を基盤とし、あらゆる年代やさまざまな場における対象者への健康問題・課題への看護実践に活用できる能力を身に着ける					
到達目標		1) 紙上事例患者の看護展開に必要な病態や症状の理解を深めることで、必要な看護に気づき、言語化することができる。 2) 紙上事例患者の健康障害の程度、生活背景、価値観やセルフケア能力をアセスメントし、健康上の課題を記述することができる。 3) 紙上事例患者の健康上の課題に対して、優先順位を考えながら患者の背景を考慮した看護計画の立案をすることができる。 4) 紙上事例患者に必要な看護実践を展開し、ケアの評価をすることができる。 5) 紙上事例患者の看護展開において、継続看護の視点を持ち患者の社会復帰を目指した看護を述べるることができる。 6) 対象者の発達段階や看護活動の場の違いによる看護展開の特徴について述べるすることができる。 7) グループワークにおいて自己の考え他者の考えを尊重しながら、効果的な意見交換ができ発表することができる。					
回数 日時	場所	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1回 4/8(水) 3限	講義室○ 講義室○	ガイダンス、看護過程とは	授業ガイダンス、看護過程の展開の解説 事前学習(30分)ナーシングプロセスⅠ、ヘルスアセスメントⅡの授業を復習しておく。 事後学習(30分)講義資料を読み復習する。				
2回 4/15(水) 3限	講義室○ 講義室○	急性期(周手術期)患者のナーシングプロセス 基礎知識:胃がん	事例患者の看護に必要な知識を確認を確認し整理する(胃がん):グループワーク・発表 事前学習(30分)胃癌の病態や症状について発表が行えるようPP資料を作成しておく。 事後学習(30分)グループワークや発表で学んだ内容を自身の春季課題に追記・修正しておく。				
3回 4/15(水) 4限	講義室○ 講義室○	急性期(周手術期)患者のナーシングプロセス基礎知識:手術治療・麻酔	事例患者の看護に必要な知識を確認を確認し整理する(手術治療・麻酔):グループワーク・発表 事前学習(30分)手術治療・麻酔についてプレゼンテーションが行えるようPP資料を作成しておく。 事後学習(30分)グループワークやプレゼンテーションで学んだ内容を自身の春季課題に追記・修正しておく。				
4回 4/22(水) 3限	講義室○ 講義室○	急性期(周手術期)のナーシングプロセス基礎知識:侵襲理論	事例患者の看護に必要な知識を確認を確認し整理する(侵襲理論):グループワーク 事前学習(30分)手術侵襲について発表が行えるようPP資料を作成しておく。 事後学習(30分)グループワークやプレゼンテーションで学んだ内容を自身の春季課題に追記・修正しておく。				
5回 4/22(水) 4限	講義室○ 講義室○	急性期(周手術期)のナーシングプロセス基礎知識:手術合併症と看護	事例患者の看護に必要な知識を確認を確認し整理する(手術合併症とその看護):グループワーク・発表 事前学習(30分)手術合併症とその看護について発表ができるようPP資料を作成しておく。 事後学習(30分)グループワークや発表で学んだ内容を自身の春季課題に追記・修正しておく。				
6回 4/28(火) 3限	講義室○ 講義室○	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:情報の整理	ヘンダーソンを基にした14項目の説明、情報収集の方法 事前学習(30分)ナーシングプロセスⅠで学んだヘンダーソンの基本的欲求について復習しておく。 事後学習(30分)ヘンダーソンを基にした7項目のアセスメントの視点について復習をする。				
7回 4/28(火) 4限	講義室○ 講義室○	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:アセスメント 呼吸・循環・体温のアセスメント個別ワーク	事例Aの呼吸・循環・体液のアセスメント:個別ワーク 事前学習(30分)第6回から第10回の授業資料を読む 事後学習(30分)わからない点を整理して次回教員に質問できるようにする。				
8回 5/13(水) 3限	講義室○ 講義室○	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:アセスメント 呼吸・循環・体温の個別ワークまとめ	事例Aの呼吸・循環・体液のアセスメント:個別ワーク 事前学習(30分)第6回から第10回の授業資料を読む。 事後学習(30分)グループワークに参加できるように個人ワーク内容を整理する。				
9回 5/13(水) 4限	講義室○ 講義室○	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:アセスメント 呼吸・循環・体温のアセスメントに関するグループワーク	事例Aの呼吸・循環・体液のアセスメント:グループワーク 事前学習(30分)第11回・12回の個人ワークの内容を整理する。 事後学習(30分)グループワーク内容を整理し、グループのまとめを行う。				
10回 5/20(水) 3限	講義室○ 講義室○	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:アセスメント 呼吸・循環・体温のアセスメントの発表	事例Aの呼吸・循環・体液のアセスメント:グループワーク発表、解説 事前学習(30分)第13回のグループワーク内容について発表準備。 事後学習(30分)授業資料を読みグループワークの結果を振り返る。				
11回 5/20(水) 4限	講義室○ 講義室○	急性期(周手術期)のナーシングプロセス演習:アセスメント 栄養・代謝のアセスメント	事例Aの栄養・代謝のアセスメント:個別ワーク、グループワーク 事前学習(30分)第6回から第10回の授業資料を読む。 事後学習(30分)グループワーク内容を整理し、グループのまとめを行う。				

12回 5/27(水) 3限	講義室○ 講義室○	急性期(周手術期)のナースング プロセス演習:アセスメント 栄養・代謝のアセスメント発表	事例Aの栄養・代謝のアセスメント:グループワーク発表、解説 事前学習(30分)ヘンダーソンの基本的欲求7項目に基づき栄養・代謝について情報の整理とアセスメントをすすめておく。 事後学習(30分)グループワークや発表で学んだ内容を個人ワークに追記・修正する。	
13回 5/27(水) 4限	講義室○ 講義室○	急性期(周手術期)のナースング プロセス演習:関連図の作成	事例Aの関連図作成:グループワーク 事前学習(30分)図書館で、周手術期事例の関連図を探し、それを参考にして急性期事例のアセスメントから関連図を作成しておく。 事後学習(30分)グループワークや発表で学んだ内容を個人の関連図に反映できるよう追記・修正する。	
14回 6/3(水) 3限	講義室○ 講義室○	急性期(周手術期)のナースング プロセス演習:作成した関連図の 発表	事例Aの関連図作成:グループワークの発表、解説。 全体像のとらえ方、記載のポイント解説。 事前学習(30分)作成した関連図にヘンダーソンの基本的欲求7項目に関するアセスメント内容が網羅させるよう作成しておく。 事後学習(30分)グループワークや発表で学んだ内容を個人の関連図に反映できるよう追記・修正する。	
15回 6/3(水) 4限	講義室○ 講義室○	急性期(周手術期)のナースング プロセス演習:看護問題の明確化	事例Aの看護問題の抽出、原因・誘因・関連因子・症状・徴候、優先順位の検討:個人ワーク、グループワーク 事前学習(30分)アセスメント、関連図から看護問題を検討しておく。 事後学習(30分)抽出された看護問題の原因・誘因・関連因子を確認する。	
16回 6/10(水) 3限	講義室○ 講義室○	急性期(周手術期)のナースング プロセス演習:看護問題の発表	事例Aの看護問題の明確化:グループワークの発表、解説 事前学習(30分)抽出された看護問題の優先順位を検討し看護問題リストを作成する。 事後学習(30分)グループワークや発表で学んだ内容を個人の関連図、問題リストに反映できるよう追記・修正する。	
17回 6/10(水) 4限	講義室○ 講義室○	急性期(周手術期)のナースング プロセス演習:看護計画の立案	事例Aの看護計画を立案する:グループワーク 事前学習(30分)看護問題に対し、期待させる結果(短期目標)を検討しておく。 事後学習(30分)グループワークで検討した看護計画について個人の看護計画に反映できるように追記・修正する。	
18回 6/24(水) 3限	基礎看護 演習室 臨床看護 演習室	急性期(周手術期)のナースング プロセス演習:看護介入の実施、 SOAP記録 看護計画の実施と記 録	事例Aの看護計画の実施、SOAP記録:グループ演習 事前学習(30分)模擬患者に看護計画の実施ができるように具体的な方法を検討しシナリオを作成しておく。 事後学習(30分)グループワークで検討した看護計画について個人の看護計画に反映できるように追記・修正する。	
19回 6/24(水) 4限	基礎看護 演習室 臨床看護 演習室	急性期(周手術期)のナースング プロセス演習:看護介入の実施、 SOAP記録 看護計画の実施と記 録	事例Aの看護計画の実施、SOAP記録:グループ演習 事前学習(30分)模擬患者に看護計画の実施ができるように具体的な方法を検討しシナリオを作成しておく。 事後学習(30分)グループワークで検討した看護計画について個人の看護計画に反映できるように追記・修正する。	
20回 6/24(水) 5限	基礎看護 演習室 臨床看護 演習室	急性期(周手術期)のナースング プロセス演習:SOAP記録のまとめ	事例Aの看護計画の実施、SOAP記録:グループ演習 事前学習(30分)模擬患者へ実施した看護計画の実施によって修正が必要な箇所を明らかにし修正・追記しておく。 事後学習(30分)看護計画の実施によって観察された模擬患者の状態や反応をSOAP記録にまとめる。	
21回 7/1(水) 3限	基礎看護 演習室 臨床看護 演習室	急性期(周手術期)のナースング プロセス演習:評価	事例Aの看護計画を評価する:講義、個人ワーク 事前学習(30分)模擬患者に実施した看護計画の内容、SOAP記録の見直しをしておく。 事後学習(30分)講義資料をもとに、看護計画の評価の方法について復習する。	
22回 7/1(水) 4限	講義室○ 講義室○	慢性疾患患者の特徴	慢性疾患をもつ患者の特徴と慢性期における看護過程の展開の留意点に関する講義、事例紹介 事前学習(30分)成人看護学、成人看護方法論Ⅱの講義資料を読む 事後学習(30分)講義資料を読む	
23回 7/8(水) 3限	講義室○ 講義室○	慢性疾患患者のナースングプロセ ス 基礎知識:糖尿病	事例B:患者の看護に必要なとなる知識を確認を確認し整理する:糖尿病 事前学習(30分)既習の糖尿病に関する授業資料を読む 事後学習(30分)糖尿病に関する既習の知識を復習する。	
24回 7/8(水) 4限	講義室○ 講義室○	慢性疾患患者のナースングプロセ ス演習:情報の整理 事例B	事例B:事例の紹介、情報整理の視点 事前学習(30分)ヘンダーソンの基本的欲求14項目について確認をしておく。 事後学習(30分)慢性事例について心理・認知的側面、社会・発達の側面と栄養・代謝の項目について情報を整理する。	
25回 7/15(水) 3限	講義室○ 講義室○	慢性疾患患者のナースングプロセ ス演習:アセスメント 糖尿病性足 病変	事例B:アセスメント糖尿病性足病変に関するアセスメントのポイント講義とグループワークと解説 事前学習(30分)成人看護学、成人看護方法論Ⅱの慢性期疾患患者の看護の授業資料を読む 事後学習(30分)授業資料を読み、グループワーク結果を振り返る	
26回 7/15(水) 4限	講義室○ 講義室○	慢性疾患患者のナースングプロセ ス演習:アセスメント 栄養・代謝	事例B:アセスメント 栄養・代謝に関するグループワークと解説 事前学習(30分)栄養・代謝の項目についてアセスメントをすすめておく。 事後学習(30分)グループワークで学んだ内容をもとに個人ワークを追記・修正する。	
27回 7/22(水) 3限	講義室○ 講義室○	慢性疾患患者のナースングプロセ ス演習:アセスメント 心理・認知 的側面、社会・発達の側面	事例B:アセスメント 心理・認知的側面、社会・発達の側面に関するグループワークと解説 事前学習(30分)成人看護学、成人看護方法論Ⅱの慢性期疾患患者の看護の授業資料を読む 事後学習(30分)授業資料を読み、グループワーク結果を振り返る	
28回 7/22(水) 4限	講義室○ 講義室○	慢性疾患患者のナースングプロセ ス演習:関連図・看護問題	事例B:関連図・看護問題の解説 事前学習(30分)図書館で糖尿病事例の関連図を探し、それを参考にして慢性期事例の関連図を作成しておく。 事後学習(30分)講義で学んだ内容を個人ワークで作成した関連図に反映させていく。	

29回 7/29(水) 3限	講義室○ 講義室○	慢性疾患患者のナーシングプロセス 演習: 関連図・看護問題	事例B: 糖尿病性足病変のリスクに関するアセスメント・関連図・看護問題、看護計画の例 事前学習(30分) 図書館で糖尿病事例の関連図を探し、それを参考にじて慢性糖尿病事例の関連図を作成しておく。 事後学習(30分) 講義で学んだ内容を個人ワークで作成した関連図に反映させていく。	
30回 7/29(水) 4限	講義室○ 講義室○	ナーシングプロセスⅡのまとめ 看護サマリー	ナーシングプロセスⅡのまとめ、看護サマリーの記載方法について 事前学習(30分) 今までの講義・演習資料を読み返しておく。 事後学習(30分) これまでの授業を踏まえて自己の課題や疑問点を整理し、学習を深める。	

評価	看護過程の事例展開レポート: 80%、その他の提出物20%
課題に対する フィードバックの方法	講義時や演習時に口頭、またはmanabaにて適宜フィードバックを実施
教科書	実習記録の書き方がわかる 看護過程展開ガイド 第2版/ 任和子 他/ 照林社/ ISBN: 978-4-796-52549-7
参考図書など	1)看護がみえるvol.4 ナーシングプロセスの展開/医学情報科学研究所編/メデックメディア/第1版/ISBN:978-4-89632-801-1 2)系統看護学講座 専門分野基礎看護学[2]基礎看護Ⅰ/有田清子 他/医学書院/第19版/ISBN:978-4-260-04992-4 3)病気が見えるvol.3 糖尿病・代謝・内分泌/医学情報科学研究所編/第5版/ ISBN: 978-4-89632-766-3
アクティブ・ラーニング	本授業はディスカッション、グループワーク、シミュレーション教育を取り入れて実施する。
実務経験のある 教員による授業	看護師としての実務経験をもつ教員が講義・演習を行う。
留意事項	本科目は、ナーシングプロセスⅠとの関連が深く、また全ての看護領域における看護実践の方法論として用いられるため、事前・事後学修、資料などをよく読み学修を積み重ねて行けるように自ら取り組む姿勢を重視する。

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
成人看護方法論Ⅱ Adult Nursing MethodologyⅡ		必修	講義・演習	1単位 (30時間)	3年前期	内藤亜由美・伊藤ふみ子・渡部節子・岡多恵・野口京子・ 石橋史子・倉橋悠子・三堀いずみ	○
ナンバリングコード	HNSD2	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP2)エビデンスに基づく実践力 DP3)援助的コミュニケーション力 DP4)チームで連携し協働する力					
応用科目							

授業概要	慢性的・長期的に経過する健康障害を持つ人のセルフケアを促進し、その人らしい生活を維持するための支援の方法について学修する。さらに、人生の最期のときにある人とその家族に対するケア、遺族へのグリーフケアについて学修する。		
到達目標	1) 慢性的な経過をたどる健康障害を有する対象者の特徴、及び慢性期における看護の特徴について説明できる。 2) 慢性的な経過をたどる健康障害の病態、治療過程を理解し、アセスメントの視点について説明できる。 3) 慢性的な経過をたどる健康障害の病態や治療が、対象者の生活に与える影響について説明できる。 4) 慢性的な経過をたどる健康障害を有する対象者への看護援助について説明できる。 5) 慢性的な経過をたどる健康障害を有する対象者のセルフケア能力を高め支える支援方法が説明できる。 6) エンドオブライフケアおよび緩和ケアの概念について説明できる。 7) 人生の最期のときにある人及び家族の特徴を全人的に理解し、QOLの維持・向上を目指す支援について説明できる。		
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	
1回 4/7(火) 4限	慢性期看護の概要	科目ガイダンス後に慢性期疾患および慢性期にある成人とその家族の看護について、ピア・インストラクションなどに取り組みながら学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	
2回 4/14(火) 4限	呼吸器機能障害のある人の看護	慢性期閉塞性肺疾患(COPD)の病態・症状・治療、それらが対象者の生活に与える影響、生活調整・生活の再構築へ向けたアセスメントの視点、看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	
3回 4/21(火) 4限	循環機能障害のある人の看護	心不全患者の病態・治療、それらが生活に与える影響とセルフ・マネージメントに向けたアセスメントの視点と看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	
4回 5/12(火) 4限	内分泌機能障害のある人の看護 ① 主な内分泌疾患の理解、糖尿病の病態、治療、セルフマネジメント	主な内分泌疾患・糖尿病(1型糖尿病・2型糖尿病)の病態・治療の理解、糖尿病が生活に与える影響とセルフ・マネージメントに向けたアセスメントの視点と看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	
5回 5/19(火) 4限	内分泌機能障害のある人の看護 ② 生活調整と生活の再構築	糖尿病の病態(糖尿病性足病変を含む)、治療が生活に与える影響と生活調整・生活の再構築に向けた支援について、ピア・インストラクションを行いながら学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	
6回 5/26(火) 4限	栄養代謝機能障害のある人の看護	肝炎および肝硬変の病態・治療・患者の看護について、ピア・インストラクションなどに取り組みながら学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	
7回 6/2(火) 4限	身体防御機能障害のある人の看護	感染症に罹患している患者の特徴と看護－結核・HIV/AIDSを中心に学修する。 事前学習(30分)教科書9の該当箇所を読む 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	
8回 6/9(火) 4限	内部環境調節機能障害のある人の看護① 腎炎・慢性腎不全・慢性腎臓病	腎炎・慢性腎不全・慢性腎臓病の病態・治療、それらが生活に与える影響、生活調整、生活の再構築のアセスメントの視点、看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	
9回 6/16(火) 4限	内部環境調節機能障害のある人の看護② 透析療法	透析療法を受ける患者のセルフケアに向けた看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	
10回 6/23(火) 4限	身体防御機能・運動障害のある人の看護	全身性エリテマトーデス(SLE)や関節リウマチの病態・治療、それらが生活に与える影響、生活調整、生活の再構築のアセスメントの視点、セルフケアに向けた看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	
11回 6/30(火) 4限	脳・神経機能障害のある人の看護	脳卒中の病態・症状、それらが生活に与える影響と生活の再調整のためのアセスメントの視点と看護援助を学修する。 事前学習(30分)教科書8の該当箇所を読む 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	

12回 7/7(火) 4限	消化器系機能障害のある人の看護	慢性便秘症、炎症性腸疾患(クローン病、潰瘍性大腸炎)の病態、治療、看護について、ピア・インストラクションなどに取り組みながら学修する。 事前学習(30分)教科書5の該当箇所を読む 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	
13回 7/14(火) 4限	造血機能障害のある人の看護	急性白血病について、その治療と看護 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リアクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	
14回 7/14(火) 5限	人生の最期のときにある人および緩和ケアを必要とする患者と家族への看護①生命を脅かす疾患	生命を脅かす疾患を抱える患者の苦痛と緩和ケアの理解 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	
14回 7/28(火) 4限	人生の最期のときにある人および緩和ケアを必要とする患者と家族への看護②エンド・オブ・ライフケア	エンド・オブ・ライフケア 事前学習(30分)教科書の該当箇所および既習科目の関連講義資料を読む。 事後学習(60分)リフレクションペーパーの提出と小テストへの回答。教科書・講義資料を読む。	

評価	各講義での小テスト45%、定期試験55%。
課題に対する フィードバックの方法	小テストの正答はmanabaで配信する。
教科書	【第1回】系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学[1]成人看護学総論/小松浩子他/2022/医学書院/第16版/ISBN: 978-4-260-04701-2 【第2回】系統看護学講座専門分野成人看護学[2]呼吸器/朝倉啓介他/2024/医学書院/第16版/ISBN: 978-4-260-05309-9 【第3回】系統看護学講座専門分野成人看護学[3]循環器/吉田俊子他/2024/医学書院/第16版/ISBN: 978-4-260-05311-2 【第4回・5回】系統看護学講座専門分野成人看護学[6]内分泌・代謝/吉岡成人他/2024/医学書院/第16版/ISBN: 978-4-260-05310-5 【第6回・12回】系統看護学講座専門分野成人看護学[5]消化器/南川雅子他/2024/医学書院/第16版/ISBN: 978-4-260-05300-6 【第8回・第11回】系統看護学講座専門分野成人看護学[11]アレルギー・膠原病感染症/泉川公一他/2025/医学書院/第16版/ISBN: 978-4-260-05674-8 【第8-9回】系統看護学講座専門分野成人看護学[8]腎・泌尿器/大東貴志他/2024/医学書院/第16版/ISBN: 978-4-260-05314-3 【第10回】系統看護学講座専門分野成人看護学[7]脳・神経/井出隆文他/2024/医学書院/第16版/ISBN: 978-4-260-05313-6 【第11回】系統看護学講座専門分野成人看護学[10]運動器/田中栄他/2025/医学書院/第16版/ISBN: 978-4-260-05679-3 【第13回】系統看護学講座専門分野成人看護学[4]血液・造血器/2024/敵野京子他/医学書院/第16版/ISBN: 978-4-260-05306-8 【第14回・15回】系統看護学講座別巻がん看護学/小松浩子他/2022/医学書院/第3版/ISBN: 978-4-260-04216-1
参考図書など	適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	・全回を通して、manabaでのリフレクションペーパーの作成と復習テストを実施することにより、学修内容の理解を深めるように構成されている。 ・適宜、ピア・インストラクションによる学生相互の学修を図り、空欄を作った資料配布し解答を考える虫食い問題に取り組むことで学修の動機付けと学生自身の理解度の確認ができるように構成されている。
実務経験のある 教員による授業	成人を対象とする慢性期看護の経験を持つ教員が授業を担当する。
留意事項	・講義には各回が指定する教科書を持参すること。 ・各回で学修予定の疾患について、既習科目(特に病態学Ⅰ～Ⅲ)の教科書・講義資料を必ず復習して講義に臨むこと。 ・本科目は、慢性期看護実習の学修の基盤となるものである。学修を積み重ねられるよう、ノートの作成を推奨する。 ・講義後のmanabaへのリフレクションペーパーの提出がない場合、出席扱いにはしない。 ・授業中の私語を慎むこと。